

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業コース
派遣国名	タイ王国	派遣期間	2022年8月～12月
派遣大学名	カセサート大学	所属学部等	農学部 Tropical agriculture

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Thai conversation in Everyday life	01363132-56	3	日常で使うタイ語や短い文章の意味を英語で説明してもらう。毎回資料が配られ、タイ人の生徒に直接質問できる時間もあるので学びやすかった。また授業内でタイ料理やムエタイなどを体験する機会もあったのでとても楽しかった。留学生のみが履修している授業なので他国からの留学生とも関わる機会ができる。テストはオンラインですべて選択形式であった。
Principles of tropical agronomy (TAIP)	01013231-64	3	農業について幅広く学ぶ。熱帯農業に関する内容は思ったより少なかったように感じた。毎回先生が変わり、配られる資料形態や授業時間も変わる。3時間みっちり授業の日もあれば1時間で終了する日もあった。基本的に座学であるので3時間集中力を持たせることが難しいところであった。テストは選択と記述が半分くらいの割合で、問題数が多いように感じた。
Alcoholic beverage technology (AIIP)	01051487-61	3 (講義2 実験1)	お酒の種類や製造方法、法律を幅広く学ぶ。TAIPよりAIIPの授業のほうが食生命科学部の授業内容に近いように感じた。実験では実際に様々な種類のお酒を製造し、飲み比べや成分分析などを行った。個人的にはとても楽しい授業であった。テストは記述形式であった。
Packaging technology and shelf life (AIIP)	01058321-63	2	食品の包装について学ぶ。グループワークやクラスワークが多かった。学期末にはグループでのプレゼンテーションがあり、準

			備のために授業外で時間をとって何回かグループメンバーと作業した。テストはすべて選択問題であり、比較的簡単だったように感じる。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00							
08:00							
09:00		Alcoholic beverage technology(講義)			Principles of tropical agronomy		
10:00				Packaging technology and shelf life			
11:00							
12:00							
13:00			Alcoholic beverage technology (講義1時間、実験3時間)※実験は長引く可能性あり、最大18時過ぎまで	Thai conversation in Everyday life			
14:00							
15:00							
16:00							
17:00	クラブ活動など						
18:00							
19:00							
20:00							
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）： 					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について				○	
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応			○		
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）： 「体調を崩したときの相手大学担当教授の対応」に関しては、体調を崩さなかったため分からない。 トラブル時は現地友人と現地日本人学生がよく助けてくれた。					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

タイ語の授業では、数の数え方や自己紹介、食べ物や乗り物の言い方など、日常で使用するタイ語を多く学んだ。現地では、英語を話せる人があまりいなく、タクシーに乗る時や料理を注文するときにタイ語を話したり理解することができないと普通の生活を送ることが難しい。発音はかなり難しいが、伝わったときはとても嬉しかったし、簡単なタイ語を覚えるだけで生活の質が格段に向上した。Principles of tropical agronomy では、農業における土壌や耕耘作業、品種改良、灌漑など、農業に関する知識を幅広く学んだ。また、「field trip」といって、パイナップルやゴム、キャッサバがたくさん生えた広大な畑やパイナップルの加工工場に実際に行って現地の農業や工場がどのように運営されているのか見学した。日本での大学では深く学ばなかったことについてよく学ぶことができている機会となった。Alcoholic beverage technology では、お酒に関する基本的な知識と製造技術について学んだ。ビールから蒸留酒まで様々な種類のお酒の原材料、製造過程、また製造過程で起こる化学反応について学び、それぞれを自分たちの手で一から作って試飲した。また出来上がった各種のお酒のアルコール度数やpH、糖度などを測り、レポートを作成した。また、ビールの飲み比べや、ワインの色・風味を調べるテストも行った。日本では「お酒」にフォーカスした授業はあまりないと思うのでとても貴重な体験であった。Packaging technology and shelf life では食品の包装に関する知識を学んだ。紙袋や瓶・缶詰など身近な包装の歴史や形態、原料などについて実際に用意されたサンプルを見て触りながらクラスメイトと意見を交わした。また賞味期限・消費期限と包装の関係や包装に使用される成分など、包装が食品にもたらす効果についても学んだ。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

授業で使われる資料は基本的には授業開始の直前であったので、予習はほとんどできなかった。その分復習に力を入れ、授業があったその日のうちか遅くても次の授業の前にはわからない単語や資料をノートにまとめた。また、課題の詳細など詳しく教えてくれない先生が多いので、自らわからないことを聞きに行く積極的な姿勢も意識した。タイ人の英語はネイティブの英語よりもやや聞き取りにくいので、その癖を自分なりに覚えることも工夫した点といえると思う。反省点については、事前準備不足が一番であると思う。実際に英語を話してみないとわからないことは確かにあったが、基本的な文法や単語は覚えていたほうが絶対に良い。もっと英語の勉強に力を入れていくべきであったと反省した。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

タイの人たちはみんな自分のやりたいことを全力で楽しそうにやっていて、「今」を楽しく生きているということをととても実感した。後先を考えすぎないこともよくないが、まずはやってみることや今をラフに楽しむ姿勢にととても刺激を受けた。また、異国の地の文化や価値観に振れたことで、自分の住んでいる場所の良さや課題点についてとても考えさせられた。現地の人たちは日本人をととても歓迎してくれて、日本人であることを実感し、改めて誇りに思う機会が多くあった。現地の人たちはもちろん、現地で出会った日本人たちの自国や他国に対する考え方や、働き方、生き方は私の将来の視野を大いに広げてくれたと感じている。これからもっと多くの人に出会って様々な考え方や文化に触れたいと強く思うきっかけになった。このような感情を持てたのはタイの方々温かく私を迎え入れてくださったからであり、自分もこういう人たちの様な温かい心と余裕を持った人間になりたいと強く思った。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

今回の留学では、専門分野に関してはもちろんのこと、世界には本当にたくさんの方がいて様々な考え方が存在すること、すべての瞬間が自分を構築する経験や自信につながることに気づき、語学の重要性など、これからの未来を充実させていくために必要なことをたくさん学んだ。これらの知識や経験は自分のスキルとして仕事面で武器にでき、さらにはこれらから得た視野の広さや考え方により「やってみたいこと」が増えたことは、自身の生きがいとして将来に活かすことができると考えている。留学で得たものを無駄にしないようにしようという姿勢も自分に喝を入れる材料として大切にしていきたい。また現地の人たちからいただいた温かさや前向きな姿勢はこれから生きていくうえで失わないようにしたいと感じているし、自分も誰かに与えられるようになりたい。

また、これからもっと様々な場所に訪れたいと考えているので、語学はもちろん、訪れる前にしておくべき準備や予約の仕方、日本とは違ったルールやマナーなど海外に行く際のシンプルな作法も忘れないようにしたいと考えている。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

迎え入れている留学生が多いので、タイ人だけではなく他国の留学生とも交流できる。また他大の日本人留学生も多いので情報交換などをしてお互いに助け合うことができたので安心感があつた。大学の場所もバンコクを中心地にととても近く、都会過ぎず田舎過ぎず、立地がととてもよかった。寮から駅も近いので移動もしやすかった。この点はタイの他大学に留学している人の話を聞いて、この大学を選んでよかったと思える一番の利点であったと考える。大学構内もとても広く、カフェやコンビニ、銀行など構内のみで生活できるくらい充実している。日本が恋しくなる時が少なからずあつたが日本食も値段は張るが充実しているし、日本人街もあるのでタイに住む日本人がどんな生活をしているのか見ることができたことも貴重な体験であったと感じている。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

わからないことがあったときは生徒でも教授でもとても親身になって教えてくれるので、直ぐ聞いたほうがいい。そこから広がる交友関係もあるので、知らない人でも話しかけてみると日本ではあまりそういった機会がなくても、現地の人フレンドリーに対応してくれる。インターナショナルプログラムの生徒たちは基本的に英語が流ちょうに話すことができるが、それ以外の生徒はタイ語がメインで英語を話せない場合がほとんどなので、事前にタイ語を少し覚えていくとうまくコミュニケーションがとりやすいと思う。タイ人も英語が母国語ではないのでスラングなどはあまり使用していなかった印象があり、しっかり英語を話そうとして気張る必要はなく、話そうとする姿勢が何よりも大切だと感じた。もちろん話せるに越したことはないです。生活スタイルが日本とかなり違うのでショックを受ける方はいるかもしれないが、興味深い文化がたくさんあるし、4 か月程度暮らしていると慣れる。食事が合わないとき少し大変かも。口にはあっても体に合わないことが結構ありました。辛い食べ物が苦手な人も苦勞するかもしれないです。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）





海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	地域総合農学科	コース	地域共生コース
派遣国名	タイ	派遣期間	2022年8～12月
派遣大学名	カセサート大学	所属学部等	農学部熱帯農業学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Introduction to Tropical Agriculture	01013111	3	課題をしっかりとやっていたら大丈夫
Paradigm in Agricultural Extension	01001211	3	テストでしっかりと自分の意見が書ければ大丈夫

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00							
08:00							
09:00				Paradigm in Agricultural Extension			
10:00							
11:00							
12:00							
13:00			Introduction to Tropical Agriculture	Thai conversation classes			
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
集中講 義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他			○		
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地			○		
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について				○	
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Introduction to Tropical Agriculture では、東南アジアの熱帯地域で行われている農業全般についてを学んだ。また、東南アジアの中での農業の違いやランクなどをグラフなどを用いて紹介された。他にも農業機械や熱帯フルーツなど、様々な講師から広く学んだ。フィールドトリップでは、水牛の飼育などを実際に見たり、大学が提携している研究所に行き、様々な畑の紹介があった。

Paradigm in Agricultural Extension では、タイや東南アジアに限らず、農業を発展させていくために必要であることを学んだ。農業技術だけでなく、経営や地域交流など様々な視点から農業について考えた。フィールドトリップでは、実際にスマート農業を行っている農家を訪ね、見学した。

Thai conversation class では、日常程度の会話をできるようになるために、基本的な単語をメインに学んだ。タイ語を読み書きすることはなかったが、実践的な内容が多く、実際にタイ人が来て会話に練習をした。授業の半分が講義、半分がグループワークでの実践形式だった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

授業中、分からない単語が出てきた際にすぐに調べられるように電子辞書を常に携帯していた。また、授業のスライドはひとつひとつ日本語訳で理解するよりかは、英語のまま理解できるようにたくさん英語に触れるようにした。反省点としては、授業後の復習を毎回の授業後に行うべきだったと感じた。また、授業スライドが配られるのは授業直前のため、授業中についていけなくなることは多少あった。その時にいかに切り替えて授業の進行から送れずについていくかが重要であると感じた。

反省点ではないが、私のパソコンは書き込むことができなかったが、書き込んでいる人が多く、とても便利だと感じたためおすすめする。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

タイの文化はとても独特で面白かった。授業も緩く、時間通りに行くことはほとんどない。だが、タイ人はみんな幸せそうで生き生きしている。幸福度の高い国だと聞いてはいたが、本当にその通りでびっくりした。また、同じ寮に住む留学生には、インドネシア人やカンボジア人、インド人などさまざまな国の人がおり、文化を共有し、多種多様な考え方を聞き、自分にも新しい考えを持つことができた。そして、日本のかなり独特な考え方を持つ国だと客観的な意見を聞くことができ、自国について見直すきっかけができた。外国を知ることができるだけでなく、改めて日本を知ることができた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

世界には様々な国の人がおり、文化があり、考え方がある。国に限った話ではないが、人によって常識は異なり、何が普通かも違う。その事実をいかに否定せずに受け入れるか、また言葉で伝えていくかが大切であるということ学んだ。また、他の国のの人々と積極的にコミュニケーションを取ることでたくさんの新しい考え方を発見できるかを知った。これからは自分から積極的に行動しコミュニケーションをとっていきたい。また、人に偏見や思い込みを持たず理解しようとしていきたいと心から感じた。日本という小さな世界で物事を見ずに、世界的な視点を持てる人になりたいと思う。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

カセサート大学はタイの文化を学ぶにはとてもいい環境だと感じる。理由は、交通のアクセスがとてもいいからだ。バンコクからタイ全土の様々な場所に行くことができ、様々な文化を肌で感じることができる。電車の駅までも徒歩5分で行くことができるため、とても出かけやすい。また、留学生の多くが国際寮に住むため、たくさんの国際交流ができる。寮の1階には共有スペースがあり、国籍に関係なくそこでみんなでご飯を食べたり、遊んだりする。自身の積極性が問われるが、積極的に交流を図ればいつでも英語を使う機会があり、くだらない話から、社会的問題について話すこともある

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

カセサート大学は他の大学に比べかなり日本人が多く、私が知る限りでも50人以上いた。そのため、日本人だけで生活しようとすればできてしまう。そうすると日本語ばかりになり、かつ他国の文化も学ぶことができなくなり、留学の意味が半減してしまうため、気を付けた方がいいと思う。積極的に他の国の人たちとコミュニケーションを取る意識を持てば本当に楽しい留學生活が送れると思う。また、カセサート大学はとてもアクセスがいため、アユタヤなど歴史的な場所には訪れることを強く薦める。現地の人の生の声を聞くことができ、文化を学ぶのに最適だと感じる。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



